

(その1) 下着着用の実態とその購入理由

山口大教育 ○生田則子, 広島女大家政 水野上与志子

【目的】 本学会被服従生学部会の中国・四国・九州地区研究班が、昭和52, 53年度の研究活動として行った「肌着に関する被服従生学的調査」についての報告である。

【方法】 対象は上記各地方の23大学1団体の関係者で18才以上の女子約3500名を用い、質問紙による依頼調査とした。時期は昭和52年夏および昭和52-53年冬の2回、着用している下着について、種類、材質、サイズならびにその購入理由(選択肢)を記入させた。

【結果】 1. 着用率の高い下着はショーツ、ブラジャー、パンティストッキング、スリッパ、ガードルの順で、冬はこれにシャツ、ソックスが加わる。2. 若年層(18~30才)は各季節とも下着枚数は少ないが、中高年層(31才以上)は冬に防寒用下着の着用率が高く下着で気候調節をしている。3. 材質: アンダーウェアは綿が多く、ファンデーションランジェリーは合繊、混用が多い。冬は合繊が多く夏は混用を多く利用する。防寒用下着は綿、毛が多い。若年層は合繊、混用が多く、中高年層は綿が多い。最内層は下半身衣では綿がほとんど用いられるが、上半身衣では合繊、混用が大半を占める。4. ちょうどよいサイズの下着を着用している率は83~87%であり、若年層の方が適寸の着用率が高い。5. 購入の理由は両年令層とも「サイズ」を最も重視しているが、それに次いで若年層では「デザイン」「色」など視覚的要求が強く、中高年層は「材質」「肌ざわり」「着心地」など保健従生的要求が強く現われる。6. 着用者の体格との関係は、最內衣の材質にはほとんど影響しない。整容用下着の着用率は肥えている者の方が高い。サイズとの適合度は痩せている者ほどゆるめを、肥えている者ほどきつめを着用する傾向が認められる。